

分科会名

特別活動

令和元年6月12日(水)

会場	川崎市立麻生小学校		
助言者	川崎市立東高津小学校 校長	齊野 保史	
	川崎市立今井小学校 教頭	西谷 秀人	
	川崎市立宮前平小学校 教頭	大類 良知	
	川崎市立上作延小学校 総括教諭	青木 洋俊	
授業者	川崎市立麻生小学校 河上 有希子	下村 智英	蟻野 真理
	本田 妙子	曾我 千恵美	宇田川 繭子
司会者	川崎市立渡田小学校 桂 今日子	川崎市立西楯ヶ谷小	長谷川 由夫
	川崎市立鷺沼小学校 長谷川 絵美		
記録者	川崎市立高津小学校 高橋 明香	川崎市立東高津小学校	飯草 結
世話人	川崎市立登戸小学校 浦野 さつき		
出席者数	99名		

1. 提案の概要

【2年生 学級活動(3) 題材「給食当番パワーアップ作戦」】

給食当番のさらなる充実のために調理員さんの働きに焦点をあてて自分のめあてを立てた。

【4年生 学級活動 議題(1)「4年1組運動会をしよう」】

集会の実施に向けて折り合いをつけ、合意形成ができるよう様々な取り組みをしながら話し合いを進めた。

【5年生 学級活動 題材(2)「目指せ健康な歯～8020プロジェクト～」】

動画を用意してポイントを焦点化し、健康な歯を維持していくために自分のめあてを立てた。

【サポート級 学級活動 議題(1)「ドッジボール集会をしよう」】

実際に活動をしてから話し合うチャレンジタイムを設けながら話し合いを行った。

2. 研究協議の概要

【2年生】

- みんなのために働くことを子どもたちが共通理解していたので、考えがずれないで活動を展開できた。
- 教師が意図をもって資料を提示しているため、ねらいに沿った発見が多く見られた。
- 調理員さんの働き方に焦点をあてた理由については、給食当番のパワーアップの原点を探すために、調理員さんの仕事の流れを自分たちの普段の配膳や片づけなどに生かそうとしたからである。
- 調理員さんは自分たちのために働いてくださっていることを理解したうえでめあてづくりを行った。食器の位置をそろえたり、箸の向きをそろえたりしていきたいという意見が出ていた。
- 現状からパワーアップをどのように図るかを考えていきたい。相手を意識しためあてを立てることが望ましい。

【4年生】

- 事前に提案者や教師、司会グループの子たちが協力して準備をして議題の選定をした。
- 子ども任せにするのではなく、教師の適切な指導のもと学級会を進めていくようにしたい。先生の入り方が大変すばらしかった。
- 教師からゆずりあいや折り合いのつけ方などを指導していくことも必要である。
- 協力することの視点が黒板に掲示されていたので話し合うときに分かりやすかった。
- 「いいと思います。」という言葉には前向きなものや周りにつられて同意するなど子どもの気持ちの強さに差があると感じた。

【5年生】

- 動画を3本立てにして細分化し、気が付いてほしいことを分類してポイントを整理するなどの工夫が見られた。
- 「歯みがきのことを考えている子が少ない」という事実に関心を持って授業を展開した。自分のこととして考えることができるように話し合いの時間を設けた。
- 健康な歯を保つためにできることを考えてから動画を見たが、歯磨きのしかたを友達と活発に話し合っている姿が見られてよかった。
- 自分なりに具体的なめあてを立てることができていた。先生がねらいに沿って意図的、計画的に進めていくことが大切である。

【サポート級】

- 実際に活動をしてから話し合う形態（チャレンジタイム）にしたら活発な話し合い活動になった。
- 柱1（何をするか）をメインにしたが柱2（どんな工夫にするか）についても話し合っていた。
- 交流級での経験がよい影響として表れている。折り合いをつけることが苦手な児童が折り合えるようになってきた。
- 見通しをもたせて安心した状態で活動に臨めたので話し合いがスムーズにできた。
- 話し合うルールを設定していくことで何を話し合うのか明確にすることができた。
- まとめ方の工夫として1つや2つにしぼるのではなく、みんないいねと認め合っていてよかった。

3. 指導講評

【2年生】

- 「〇〇さんと一緒に・似ている」など子どもたち同士で意見をつなげられてすばらしい。
- 調理員さんのインタビュー動画を見ることができるのは大変よい経験になる。校内の他の職員の方々の連携はとても重要である。
- 子どもたちから意見が出尽くしたようであった。新しい意見を出していくよりも今まで出ている考えをより深めていく方法もある。
- 先生がテーマにつなげていくために子どもたちの言葉をしっかりと拾っていた。
- 社会参画意識を育て、働く意義を理解していくというテーマを忘れてはならない。そのために、自分の事として捉えられる題材や焦点化するための資料を提示していくことが大切である。

【4年生】

- 子どもたちが安心して話せるクラスづくりができています。普段からの指導が大切である。
- 学級目標が子どもたちに定着している。学級会の中でも学級目標に関連する発言が多くあった。
- 意見を分かりやすく分類するなど板書の工夫が見られた。
- 教師は見守るスタンスが基本となる。しかし、時間が足りなかったり、揺さぶりをかけたりする時などは教師が話し合いに入っていくことも必要である。
- 賛成意見以外にも心配する意見も出てきた。その理由をもっと詳しく聞いてもよかったと思う。どんなことに心配しているのかを掘り下げていくことで意見の決定のための視点になることもある。

【5年生】

- 子どもたちの歯に関する実態から授業に入っていたことは大変よかった。
- 「今の歯を保つために」と「より健康な歯をつくるために」とでは、前者は現状維持、後者はより積極的なイメージになる。（2）では、「よりよくしていくために」という視点で授業を展開したい。
- 「さぐる」段階で自分たちの現状について話し合い、「見つける」の段階で資料を提示していた。動画を通して自分たちの課題を見つけようとするねらいなので見せるタイミングとしてはよかった。
- 生活の中で自分が課題を見つけて解決策を話し合い、実践していく流れにしてほしい。
- 知識的なことに偏らず、実践することに重きを置いていたのがよかった。

【サポート級】

- 先生の立ち位置が明確になっており、チームワークがよかった。
- 場の工夫として小体育館で活動ができたことに注目したい。話し合っただけで試してみることができたので体験を通して理解することにつながった。
- 子どもたちが授業を通して自己有用感をもつことにつながった。とても楽しそうだった。
- 振り返りでは一人一人のよいところをしっかりと見つけ、認めていた。集団としてのめあてと個人としてのめあてが明確に位置づけられていた。特別支援学級においても学級会を経験し、集団として成していったほしい。